

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第745集

令和5年度発掘調査報告書

調査概報（10遺跡）

2024

（公財）岩手県文化振興事業団

令和5年度発掘調査報告書

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、令和5年度に当センターが発掘調査を実施した全遺跡の調査成果をまとめ、調査概報として発刊するものです。令和5年度は、全県下で10遺跡、127,210㎡が調査され、縄文時代から近世までの遺構、遺物が検出されております。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました各事業者、地元教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

令和6年3月

公益財団法人岩手県文化振興事業団
理事長 石田知子

目 次

| | |
|--------------------|---|
| 令和5年度発掘調査の概要 | 1 |
|--------------------|---|

発掘調査概報

| | |
|------------------------|----|
| (1) 中林下遺跡 (奥州市) | 5 |
| (2) 天ヶ沢遺跡 (花巻市) | 6 |
| (3) 折居遺跡 (花巻市) | 7 |
| (4) 作屋敷遺跡 (奥州市) | 8 |
| (5) 太田林遺跡 (釜石市) | 9 |
| (6) 岡田遺跡 (北上市) | 10 |
| (7) 広表遺跡 (北上市) | 11 |
| (8) 山ノ神Ⅱ遺跡 (花巻市) | 12 |
| (9) 中平遺跡 (野田村) | 13 |
| (10) 中塚Ⅲ遺跡 (住田町) | 14 |

令和5年度発掘調査の概要

令和5年度の発掘調査は、当初計画9遺跡、総面積124,264㎡で開始された。年度途中で住田町中塚Ⅲ遺跡の内容確認調査が追加されたほか、いくつかの遺跡で調査面積の増減が生じたことから、最終的には10遺跡、127,210㎡が対象となった。調査終了面積を前年度実績と比較すると、およそ1.7倍となっている。昨年度に引き続き、調査は県央部を主体とし、県北および県央沿岸部各1遺跡を含む4市1町1村にわたっている。事業内容としては、国道4号関連の道路建設1遺跡、県の農業基盤整備3遺跡、市町村からの受託6遺跡となっており、自治体関連の発掘調査の増加が目立っている。

時代ごとに今年度の調査成果を概観する。昨年度、旧石器時代の石器集中区が見つかった北上市岡田遺跡だが、今年度は他の調査遺跡を含め当該期の遺物は出土しなかった。

次に縄文時代の遺跡では、花巻市山ノ神Ⅱ遺跡、北上市岡田遺跡、同広表遺跡から、数多くの陥し穴状遺構が確認された。遺跡ごとの総数は、順に186基・123基・61基を数え、規則的に配置される事例も見受けられる。いずれの遺跡においても、平面形には溝状と円形の2種があり、後者には埋土中に十和田中堰降下火山灰が混入するものが多い。また、このタイプには底面に副穴を有するものが相当数認められ、円形をなす陥し穴の構造を考察するに興味深い成果が得られている。花巻市折居遺跡では、縄文前期前葉から中期初めにかけての大形住居や石製品類を伴う墓壇、大形の貯蔵穴などが多数見つかった。検出状況から、これらの遺構群は環状に配置される可能性があり、次年度の継続調査に期待がかかる。また、釜石市太田林遺跡でも前期後葉を主体とする竪穴住居が24棟確認されたが、昨年引き続き玦状耳飾りや未製品も出土し、製作工房を伴う集落であったことは事実となった。

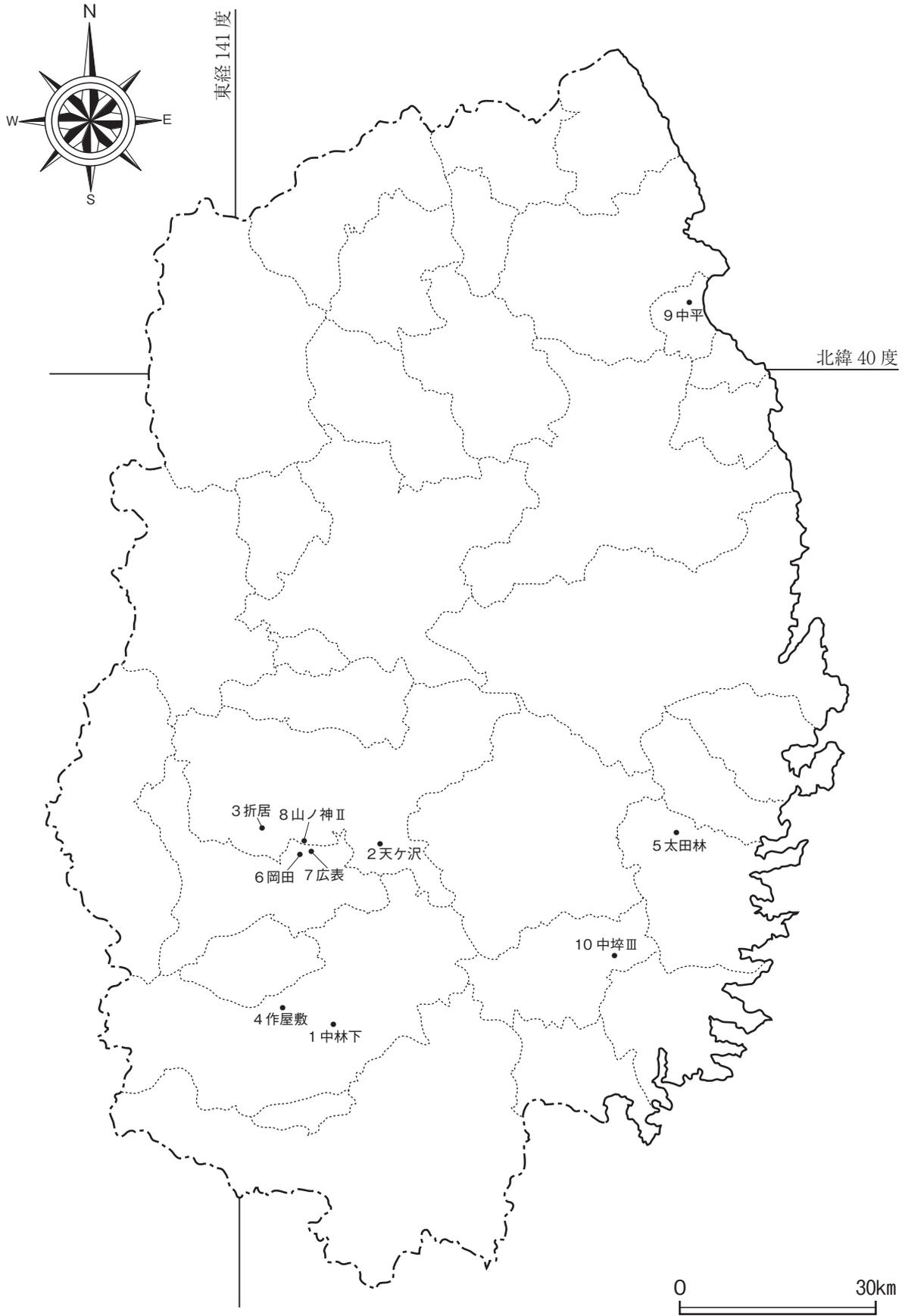
弥生時代については、花巻市天ヶ沢遺跡が挙げられる。本遺跡では、埋没沢から弥生中期の土器や土・石製品が大量に出土しているが、その範囲が調査区域外に広がることから、今年度も引き続き調査を継続した。遺構・遺物とも、岩手県内では出土事例の少ない時期の遺物であることに加え、佐渡を含む北陸地方など、日本海側との交流を示す装飾品である碧玉製管玉や、シカ類と思われる動物形土製品が出土し注目される。

続く平安時代では、関東方面で一般的なカマド施設の特徴を有する竪穴住居が数棟見つかった北上市岡田遺跡のほか、同じ北上市の広表遺跡や野田村中平遺跡でも、竪穴住居が1棟ずつ検出されている。この他、生産関連の遺構として花巻市山ノ神Ⅱ遺跡では製鉄関連の炭窯8基を確認したが、今年度の調査範囲からは、竪穴住居が見つからなかった。奥州市中林下遺跡からは、平泉藤原氏時代の溝や土坑のほか、遺物ではかわらけ・国産陶磁器類などが出土し、当該遺跡の集落の広がりや性格について新たな資料を追加することができた。

最後に中・近世の遺跡であるが、奥州市胆沢に所在する作屋敷遺跡からは、3期にわたる12棟の掘立柱建物とそれに付属する遺構群、例えば池状の施設や井戸、屋敷を区画する溝などがまとまって確認された。いずれも屋敷を構成する一連の遺構である可能性が高い。出土遺物の特徴などから、時期は室町時代14～15世紀代と考えられる。なお、近世に所属することが明確な遺構は、天ヶ沢遺跡で掘立柱建物が1棟、中林下遺跡で溝が1条確認された以外に事例が認められなかった。

令和6年度も調査が継続される遺跡は、中林下遺跡、折居遺跡、岡田遺跡、中塚Ⅲ遺跡の4遺跡を数えるが、この他の新規事業に関わる遺跡を含め、各々の発掘調査で得られる新たな情報を県民の皆様が発信していきたい。

(調査課長 濱田 宏)



報告遺跡位置図

数字は発掘調査概報報告番号と共通

発掘調査概報

凡 例

- ・遺跡位置図は、1: 50,000である。国土地理院2001『数値地図－岩手』を使用した。
- ・本書で記載されているコンテナの大きさは内寸で下記のとおりである。
 - 大コンテナ：42×32×30cm
 - 中コンテナ：42×32×20cm
 - 小コンテナ：42×32×10cm
- ・本書では、遺構名称を簡素化し、遺構名称末尾に付す「跡」を省略する。
(例) 竪穴住居跡→竪穴住居、掘立柱建物跡→掘立柱建物、溝跡→溝

(1) ^{なかばやしした}中林下遺跡

所在地 奥州市水沢真城字中林下94-1ほか
 委託者 国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
 事業名 一般国道4号水沢東バイパス建設
 発掘調査期間 令和5年9月4日～10月31日
 調査終了面積 1,820㎡
 調査担当者 村田 淳・八木勝枝
 主要な時代 平安・中世・近世



遺跡の立地

遺跡は、奥州市水沢真城地区に所在し、西方に広がる河岸段丘の東縁に大深沢川が形成した小規模な扇状地に立地する。同一事業としては令和4年度からの継続調査であり、調査区は遺跡範囲の北西端、令和4年度調査区の北側に位置する。調査前の現況は宅地であり、全域で造成や擁壁設置に伴う攪乱が著しかった。遺構検出面の標高は、39～41mである。

調査の概要

検出遺構は、古代（9～12世紀）の竪穴建物1軒、土坑8基、溝1条、中世（15～16世紀）の土坑墓1基、土坑1基、溝1条、近世（18～19世紀）の溝1条、時期不明の土坑4基、溝3条、掘立柱建物4棟、柵列2条、柱穴状土坑297個、焼土2基、性格不明遺構2基である。

出土遺物は、縄文土器、古代の土師器・須恵器・かわらけ・陶磁器（青磁・白磁・渥美窯産等）が中コンテナ2箱、瓦1点、古代～中世の銭貨（開元通寶・永楽通寶等）9枚、木製品（柄杓・杭・板材等）小コンテナ6箱、中～近世の陶磁器、時期不明の砥石1点、鉄製品2点等である。

今回の調査では古代～近世の遺構・遺物を検出した。調査区南側では古代（12世紀）の遺物が出土する溝と中世（15～16世紀）の遺物が出土する溝が交差している状況が確認された。永楽通寶を副葬した中世の土坑墓も確認されており、古代でも墓の可能性のある土坑がある。一方、調査区北側では古代の竪穴建物、南側では掘立柱建物・柵列も検出されているが、全域で建物に関連する遺構の検出数は少ないことから集落あるいは屋敷地の中でも縁辺部に位置し、墓域のように居住以外の目的で利用された範囲であったと考えられる。



交差する古代と中世の溝（北から）



中世の土坑墓（南から）

(2) ^{あまがさわ}天ヶ沢遺跡

所在地 花巻市東和町砂子3区地内
委託者 岩手県南広域振興局農政部
事業名 経営体育成基盤整備事業（砂子地区）
発掘調査期間 令和5年4月17日～7月14日
調査終了面積 2,000㎡
調査担当者 福島正和・野中裕貴・楳形 信
主要な時代 縄文・弥生・近世



遺跡の立地

遺跡は、JR釜石線晴山駅より南約3kmに位置する。谷状地形に挟まれた東から西へと延びる段丘縁辺に立地し、標高は約178mである。調査区は昨年度調査を終えた東側に位置する。調査前までは、2面の水田であった。微高地部分は削平されていたが、低地部分は良好に残存していた。

調査の概要

検出遺構は、近世と考えられる掘立柱建物1棟、弥生時代の埋設土器2箇所、土坑1基、時代不明の陥し穴状遺構1基、縄文時代から中世にかけて自然埋没した沢2条である。調査区中央で検出した沢は昨年度調査で検出したものに連続し、東から西へ向け調査区を貫流するように存在する。

出土遺物は、沢最下層から縄文早期末土器片1袋、沢上層から弥生時代中期の土器大コンテナ33箱、石鎌・石錐をはじめとする石器中コンテナ4箱、動物形土製品4点、さらに遠隔地から搬入されたと思われる碧玉製管玉2点が出土した。

大半の遺構は水田造成によってすでに消滅した可能性が高いが、沢の出土遺物から縄文時代早期末や弥生時代中期の集落域が近在していたものと想定される。



航空写真（南西から）

(3) ^{おりい}折居遺跡

所在地 花巻市太田第27地割地内
 委託者 岩手県南広域振興局農政部
 事業名 農業農村整備事業（農業競争力強化基盤整備事業経営体育成型 太田地区）
 発掘調査期間 令和5年7月18日～11月30日
 調査終了面積 2,036㎡
 調査担当者 野中裕貴・福島正和・八木勝枝・欽形 信
 主要な時代 縄文



遺跡の立地

遺跡は、花巻市太田地区に所在し、岩手県立清風支援学校の北西約100mに位置する。寒沢川によって形成された標高約120mの段丘上に立地し、現況は、水田・畑地であった。今年度の調査は、調査対象区域東側の2,036㎡を終了した。次年度も継続調査の予定である。

調査の概要

検出遺構は、竪穴住居16棟、竪穴状遺構13基、貯蔵穴2基、墓壙1基、陥し穴状遺構5基、土坑29基などである。段丘頂上部にあたる調査区北側を主体に縄文時代前期末から中期初頭にかけて集落が営まれていたことが判明したほか、調査区中央を北西から南東に横切るように見つかった沢跡を挟んで南側は、縄文時代前期初頭に狩猟場として機能していたことも判明した。

集落は、北側の段丘頂上部を主体に竪穴住居や楕円形の竪穴状遺構が配置され、さらに、その南側の沢際に土坑や長方形の竪穴状遺構が配置される傾向にあり、意図的に遺構配置を分けた集落構造がうかがえる。

出土遺物は、大木6式を主体とした縄文土器大コンテナ75箱、剥片石器・剥片類小コンテナ13箱、礫石器中コンテナ20箱、土偶1点、土玉1点、スタンプ状土製品2点、玦状耳飾4点、垂飾品2点、石棒1点、石剣1点などである。



調査区全景（直上・上が北）



竪穴住居全景（南から）



竪穴状遺構の遺物出土状況（東から）

(4) 作屋敷遺跡

所在地 奥州市胆沢南都田字独光163ほか
委託者 岩手県南広域振興局農政部
事業名 経営体育成基盤整備事業（若柳中部地区）
発掘調査期間 令和5年10月16日～12月21日
調査終了面積 1,465㎡
調査担当者 北田 勲・小山内 透
主要な時代 中世



遺跡の立地

遺跡は奥州市胆沢南都田地内に所在し、北側には国道397号が東西に走る幹線道路沿いに位置する。遺跡は胆沢川から分流した茂井羅中堰から、さらに派生した小違堰に北側を接しているが、戦国時代後半に北郷茂井羅が中心となって開削した水路と伝えられる茂井羅堰が築かれる以前から小河川の旧小違川として存在したと考えられる。小河川を挟んだ北東側には、平成24・25年の調査で奈良時代は大規模な集落、平安時代は大溝に囲まれた豪族の居宅と推定される遺構が確認された漆町遺跡がある。調査地点の現況は水田で、標高は95.0～96.2mである。

調査の概要

過去の調査から、本遺跡は奈良時代と平安時代の集落を主体とする遺跡であることが分かっていたが、今回の調査から遺跡範囲の北西部には中世の遺構群が広がることが分かった。今回の調査で検出した遺構は、中世（15世紀代）と考えられる掘立柱建物15棟、土坑14基、井戸状遺構1基、溝11条、池状遺構1基、柱穴状土坑803個（掘立柱建物分含む）である。

出土遺物は、平安時代の土器小0.5箱（土師器・須恵器）、中世の陶磁器小1箱（14～15世紀の中国産青磁碗、14世紀の常滑産甕など）、羽口1点、炉壁2点、砥石3点、鋏1点、鉄釘4点、鋳物3点、銭貨34点（さし銭・北宋銭か）、柱根3点、磔大1箱（未選別）である。

検出した掘立柱建物のうち、主屋と見られる廂付掘立柱建物を複数確認しており、重複関係から3時期以上の変遷が捉えられる。また、井戸や池など屋敷を構成する遺構がまとまって見つかり、建物規模からも有力在地小領主の屋敷と考えられる。加えて、掘立柱建物群を巡る可能性がある溝も検出されており、山城型城館へ変化する以前の居館と推定される。中世後半の胆沢地域は柏山氏が在地領主として統治しており、本居館跡はこれに従属する家臣の館と推測される。



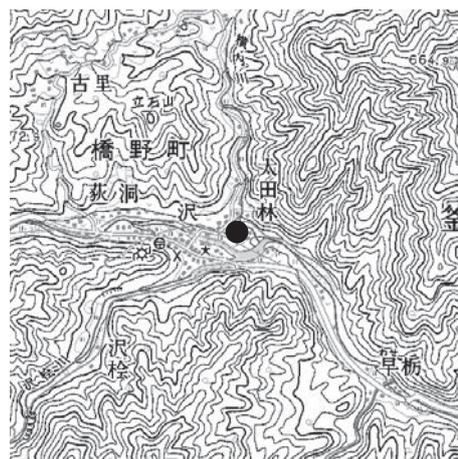
調査区全景（直上・上が北）



中世後半の掘立柱建物群（西から）

おたばやし
(5) 太田林遺跡

所在地 釜石市橋野町第38地割34番地1・36番地1
 委託者 釜石市
 事業名 釜石市橋野地区消防屯所建設事業
 発掘調査期間 令和5年5月1日～8月31日
 調査終了面積 488㎡
 調査担当者 八木勝枝・村田 淳
 主要な時代 縄文



1:50,000 大槌

遺跡の立地

遺跡は、鵜住居川左岸砂礫段丘上の標高約157m地点に立地する。昨年度からの継続調査で、今年度は昨年度調査地点より一段低い南隣接地点を調査した。

調査の概要

検出遺構は、竪穴住居24棟、貯蔵穴等の土坑43基、柱状土坑373個である。竪穴住居は、前期の方形及び大型竪穴住居で構成されている。

出土遺物は、土器大コンテナ17箱、石器中コンテナ11箱、玦状耳飾等石製品小コンテナ1箱、サメ歯、焼骨である。土器の主な時期は縄文時代前期である。

昨年度調査した前期後葉の竪穴住居が南に広がる事が判明した。さらに、竪穴住居は東・南・西方向の調査区外に延びており、太田林遺跡の居住域は遺跡の広範囲に広がる可能性がある。



遺跡遠景（南から）

(6) ^{おかだ}岡田遺跡

所在地 北上市村崎野12地割地内
委託者 北上市
事業名 北上北部産業業務団地造成事業
発掘調査期間 令和5年4月10日～11月30日
調査終了面積 40,100㎡
調査担当者 村上 拓・北村忠昭・小山内 透・袖林 清
主要な時代 縄文・平安



遺跡の立地

遺跡は JR 村崎野駅の北西約2.4kmに所在する。岩手県立中部病院の北西約950mの地点が今次調査の対象である。立地面は和賀川左岸の村崎野中位段丘に相当し、北側を東流する大堰川に伴う低地、南側をその支沢が埋没した低地に区切られ、概ね東西方向に延びる尾根状の微高地となっている。令和4年度は微高地東部の調査を実施し、今年度は前年度調査区西側の隣接区域を対象とした。

調査の概要

検出した遺構は、縄文時代陥し穴状遺構123基、土坑1基、平安時代竪穴住居6棟で、他に時期不明の住居状遺構2棟、井戸跡1基、土坑1基がある。出土遺物は、縄文時代土器数点、石器数点（石鏃・剥片他）、平安時代土器大2箱（土師器坏・甕）、椀形鍛冶滓等である。

縄文時代の陥し穴状遺構は、令和4年度調査区から連続して西側に分布を広げていることが確認された。溝形・円形が主体だが、他に長方形・長楕円形・砲弾形・深細形など多様な形態がみられる。全体的な密度は西側に向かうほど次第に希薄になる。また西部ほど溝形が減少し他形態(主に円形が)主体となる傾向がみられた。

平安時代の住居群は、調査区南東部の南向きの緩斜面にまとまって分布している。前年度検出の住居群に共通する選地傾向が読み取れるが、今次調査の一群には外延する煙道を持たない住居が含まれる点で異なる。また住居内部にはカマド燃焼部のほかに炉様の焼土生成箇所を伴う例を複数確認した。鍛冶関連の作業場とされた可能性がある。

なお次年度以降もさらに西側の区域の調査が予定されており、本遺跡の全体像が明らかになるものと期待される。



調査区全景（東から）



平安時代住居群（南東部）

ひろおもて
(7) 広表遺跡

所在地 北上市村崎野21地割地内
 委託者 北上市
 事業名 北上工業団地整備事業
 発掘調査期間 令和5年4月10日～10月31日
 調査終了面積 15,226㎡
 調査担当者 溜 浩二郎・村木 敬・須原 拓・八木勝枝・
 村田 淳・富川 悟
 主要な時代 縄文・弥生・平安



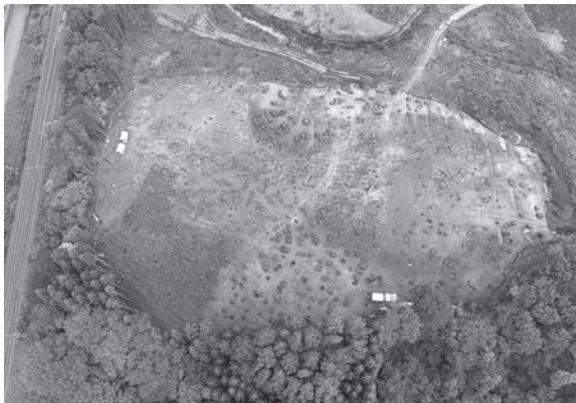
遺跡の立地

遺跡は、JR 東北本線村崎野駅から北へ約2.1kmに位置し、北上川の支流である飯豊川右岸の砂礫段丘上に立地する。調査前の現況は植林による雑木林で標高は80～85mを測る。

調査の概要

検出遺構は、縄文時代の竪穴住居5棟、陥し穴状遺構61基、土坑28基、焼土遺構3基、平安時代が竪穴住居1棟で他に時期不明の柱穴状土坑21個である。出土遺物は縄文土器が大コンテナ8.5箱、石器大コンテナ5箱、平安時代の土師器・須恵器が大コンテナ1箱、他に石製品・土製品である。

今回の調査で調査区東側の段丘縁部周辺に縄文時代前期の集落が形成されていたこと、調査区全域で陥し穴状遺構が見つかり、狩猟場としての土地利用があったことが明らかとなった。



調査区全景（上が北）



縄文時代前期の竪穴住居



陥し穴状遺構



土坑内遺物出土状況

(8) 山ノ神Ⅱ遺跡

所在地 花巻市山の神地内
委託者 花巻市
事業名 (仮称) 花南産業団地整備事業
発掘調査期間 令和5年4月7日～11月30日
調査終了面積 61,875㎡
調査担当者 杉沢昭太郎・村木 敬・北田 勲・川又 晋・
長沼宏行・富川 悟
主要な時代 縄文・平安



遺跡の立地

遺跡は、JR 花巻駅から南方約3.3kmに位置し、豊沢川南岸の中位段丘に立地している。標高は90m前後で、現況は果樹園・畑地・雑木林等であった。

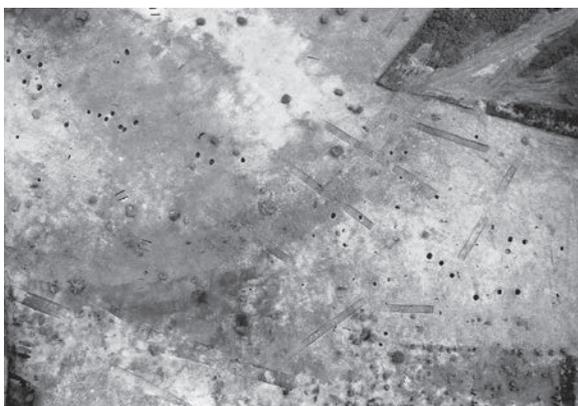
調査の概要

検出遺構は、縄文時代の陥し穴状遺構186基、貯蔵穴9基、土坑2基。平安時代の炭窯8基、時期不明焼土1基である。

出土遺物は、縄文時代の土器片や石器類が小コンテナ1箱出土している。

縄文時代の陥し穴状遺構が186基見つかかり、狩猟の場として盛んに利用されていたことが分かった。陥し穴状遺構の平面形は四角形と溝状のものに分けられる。本遺跡では四角形のもの为主体となり、埋土には十和田中振火山灰を含むものが多くあった。これらの陥し穴状遺構群には時期差、変遷が想定されるものの、全体としては北西から南東方向へと列を成すように分布しており、陥し穴状遺構を用いた狩猟のあり方を考察する上で良好な事例になった。また、貯蔵穴が見つかったことから、短期間ではあるが小規模な集落が存在していたことも明らかになった。竪穴住居は近現代の耕作により削平されたため、検出できなかったと考えられる。

平安時代の炭窯は地面を浅く四角形に掘り下げた程度の簡素な構造のものである。埋土には十和田aとみられる火山灰が含まれており、10世紀初め頃の遺構といえる。



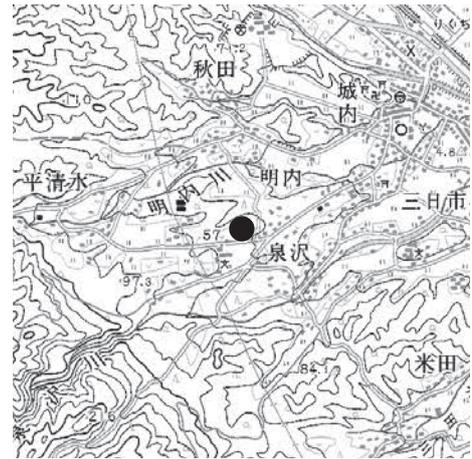
調査区中央 (上が北)



調査区遠景 (東から)

(9) ^{なかたい}中平遺跡

所在地 九戸郡野田村大字野田第22地割138番地1ほか
 委託者 野田村
 事業名 野田小学校整備事業
 発掘調査期間 令和5年4月6日～令和5年6月9日
 調査終了面積 2,000㎡
 調査担当者 村木 敬・須原 拓
 主要な時代 縄文・古代



1:50,000 陸中野田

遺跡の立地

遺跡は、野田村役場から南西約1.3kmに位置し、明内川と泉沢川に挟まれた標高約40～50mの丘陵上に立地している。今回の調査区は、昭和29年に県史跡「野田竪穴住居跡群」として登録された史跡指定範囲の北東側にあたる。

調査の概要

検出遺構は、縄文時代の竪穴住居4棟、土坑10基、陥し穴状遺構17基、平安時代の竪穴住居1棟、土坑4基、出土遺物は、縄文土器ビニール小1袋、土師器小コンテナ1箱、鉄製品2点などである。

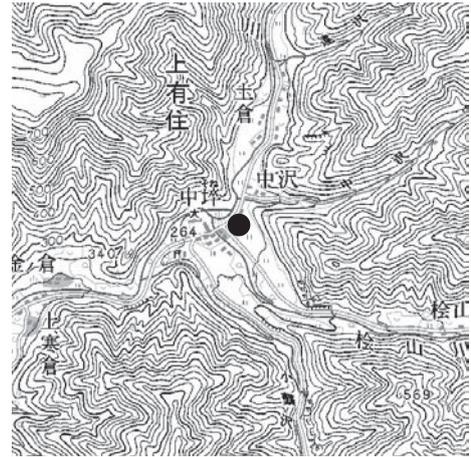
今回の調査では、昨年度に引き続き、縄文時代前期と平安時代の集落、縄文時代の狩猟場が広がることを確認している。



調査区全景

(10) ^{なかぞね}中塚Ⅲ遺跡

所在地 岩手県気仙郡住田町上有住字中塚地内
委託者 住田町
事業名 工場建設
発掘調査期間 令和5年11月1日～11月30日
調査終了面積 0㎡（表土除去・内容確認3,570㎡）
調査担当者 須原 拓・村田 淳
主要な時代 縄文



1:50,000 遠野

遺跡の立地

遺跡は県道167号線と180号線の交差点付近に位置する。標高600mを超える山々に囲まれ、南から北へと緩やかに傾斜する谷地形に立地する。また遺跡の北東側には気仙川支流の松山川が流れている。標高は273m前後である。調査前は畑地であったが、古くは水田として利用されており、調査区とその周辺は階段状に造成されている。そのため削平が激しく、今回の調査区も遺物包含層が一部消失していた。なお調査は来年度も継続する予定である。

調査の概要

今年度の調査は表土除去と遺構・遺物の有無、内容の確認であり、遺構精査等は来年度に行う予定である。そのため確認できた遺構とその数量は正確ではないが、遺物包含層と土坑数基、埋設土器2箇所、他に竪穴住居と推定する遺構プランと、配石の可能性のある礫群数箇所を確認した。遺物包含層は削平により消失した範囲を除き、調査区のほぼ全域に堆積しており、厚さは10～50cmを測る。土坑は1～2mの楕円形を呈し、検出面に20cm以上の礫が露出しているものが多い。

出土遺物は、縄文土器が大コンテナ7箱、石器が中コンテナ25箱で、概ね縄文時代後～晩期に比定される遺物である。他に同時期の土偶や石棒類などが出土しており、特に石棒類は破片であるが15点出土している。

遺物包含層の掘り下げを次年度に持ち越しており、本遺跡の内容把握はまだできていない状況であるが、トレンチを設定し遺物包含層を一部掘り下げたところ、右下写真のような配石の可能性のある礫群を確認した。これらがどのような遺構であるかは、やはり遺物包含層全体を除去しなければ分からず、来年度への課題として残っている。



調査区全景（南東から）



配石の可能性のある礫群（南東から）

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第745集

令和5年度発掘調査報告書

印刷 令和6年3月11日

発行 令和6年3月18日

編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019)638-9001

発行 (公財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
電話 (019)654-2235

印刷 大更印刷株式会社
〒028-7111 岩手県八幡平市大更21-16-9
電話 (0195)76-2514